



3月
11日

3000体の「流し雛」 東日本大震災復興への願いを込めて

3月11日（日）弥生のムラで、S.E.P(Save East Project)と夢咲き桜の会主催による「東日本大震災復興支援チャリティーイベント」が開催されました。

会場では、市内の飲食店による弁当や東北地方特産品の販売が行われ、売上金の一部は被災地の復興支援に役立てられるとのこと。ステージでは、被災地で演奏活動を行う和気優さんのライブ、震災により岩手県から国東市へ移住された村田光貴さんが現在の心境を語りました。

震災発生時刻の午後2時46分に参加者全員で東北の方向を向き、黙とう。犠牲者への追悼の気持ちと1日も

早い復興への願いを込めて、「流し雛」約3000体を田深川の水面に浮かべました。この「流し雛」は、弥生のムラ古代土器作り講座生が作成し、大分空港などの市内施設を訪れた人や当日の来場者が復興祈願を書き込んだものです。

心地よさを体験してください

3月
16日

3月16日（金）、地域雇用創造推進事業（パッケージ事業）で、七島イの生産・加工技術を学ぶ人材育成セミナーに関わっている二豊製畳の細田利彦社長と今富建築の今富正幸さんから七島イの畳を使った縁台を寄贈していただきました。

縁台はスギを使い、角を丸く加工した木製の台に、柔道用の畳床を使用した弾力性のある畳をはめ込んだものになっています。多くの市民に使い心地の良さを知ってもらおうと、本庁ロビーに設置しました。

(左から) 細田社長、今富さん、三河市長



3月
20日

ユーモラスな伝統行事

3月20日（火）、安岐町明治の諸田山神社で「諸田山神社御田植祭」（県指定無形民俗文化財）が行われました。約190年にわたり諸田地区に受け継がれる伝統行事で、五穀豊穰、子孫繁栄を祈る田植えの神事です。

早乙女に扮した男の子たちの田植えや、化粧をした男性の畦塗りなど、一連の農作業の様子が太鼓や笛の拍子に合わせてユーモラスに演じられました。

県子ども会芸能文化祭 in くにみ

3月
4日

3月4日（日）、第31回大分県子ども連芸能文化祭が国見町のみんなかんで行われました。市内外から子ども会10団体、約200人が参加して、太鼓や踊り、体操などを発表しました。市内からは、伊美小学校の歌舞伎をはじめ、内田太鼓保存会、3B体操ジュニア、菜の花スポーツ塾が出演し日頃の練習の成果を披露しました。

フィナーレでは、ジュニアリーダーの中学生、高校生と一緒に会場の子どもたちが全員でダンスを踊り交流を深めました。

